

問18 2変数 X, Y の相関係数を r とすると、 $-1 \leq r \leq 1$ であることを証明してください。

(答え) X_i, Y_i ($i = 1, 2, 3, \dots, n$), t を実数とすると、

$$(X_1 t - Y_1)^2 + (X_2 t - Y_2)^2 + \dots + (X_n t - Y_n)^2 \geq 0 \dots\dots\dots (1)$$

ここで、 X_1, X_2, \dots, X_n は、同時には0でないものとしますと、

等号は、
$$\frac{Y_1}{X_1} = \frac{Y_2}{X_2} = \dots = \frac{Y_n}{X_n} = t \dots\dots\dots (2)$$

のとき成立することがわかります。(ただし、 $X_i = 0$ のときは $Y_i = 0$)

(1)の各項を展開して、 t について整とんすれば

$$(X_1^2 + X_2^2 + \dots + X_n^2) t^2 - 2(X_1 Y_1 + X_2 Y_2 + \dots + X_n Y_n) t + (Y_1^2 + Y_2^2 + \dots + Y_n^2) \geq 0$$

これが成立するための条件は、

$$(X_1 Y_1 + X_2 Y_2 + \dots + X_n Y_n)^2 \leq (X_1^2 + X_2^2 + \dots + X_n^2) (Y_1^2 + Y_2^2 + \dots + Y_n^2)$$

これが、コーシ・シュワルツの不等式です。これを変形して、次の不等式が導かれます。

$$-1 \leq \frac{X_1 Y_1 + X_2 Y_2 + \dots + X_n Y_n}{\sqrt{(X_1^2 + X_2^2 + \dots + X_n^2)(Y_1^2 + Y_2^2 + \dots + Y_n^2)}} \leq 1 \dots (3)$$

ただし、等号は、(2)の成立するときに、成立します。

さて、2変数 X, Y の相関係数 r の定義式は、

$$\begin{aligned} r &= \frac{1}{n} \cdot \frac{\sum (x - \bar{x})(y - \bar{y})}{s_x s_y} \\ &= \frac{1}{n} \cdot \frac{\sum (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})}{\sqrt{\frac{1}{n} \sum (x_i - \bar{x})^2} \sqrt{\frac{1}{n} \sum (y_i - \bar{y})^2}} \\ &= \frac{\sum (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y})}{\sqrt{\sum (x_i - \bar{x})^2} \sqrt{\sum (y_i - \bar{y})^2}} \dots\dots\dots (4) \end{aligned}$$

ここで、 $x_i - \bar{x} = X_i, y_i - \bar{y} = Y_i$ とおくと、